

【集広舎】

『新聞が伝えた 通州事件 1937—1945』

好評発売中 !!

□ 知人友人に

本書をご紹介ください !

□ お近くの図書館で本書を

リクエストしてください !

◇当時の新聞記事を時系列に編集し、戦後長らく忘却されていた「通州事件」を追体験できるようにした

◇記事の複写画像とともに新字新仮名による書き写しを併録。総項目数 275 点

◇B5 判サイズの紙面と大きく見やすい活字

◇「通州事件」新聞記事集成に加え、解説や関連資料も充実



午 の で が 通 :

あなたは

悲 慘 な 死 體 が あ る だ ろ う か ?

亂 射 銃 撃

「通州事件」をどう存じですか?

この問いかけに、ほとんどの人は「ノー」としか答えられないと思います。なぜならば、戦後の日本人は近代日本の歴史をすべてアジア諸民族への加害の歴史として教え込まれ、中国がでっち上げた「南京大虐殺」を史実として認識させられる一方、実際に日本人が犠牲になった「通州事件」は教えられずに闇に葬られてきたからです。

「通州事件」とは、昭和 12 (1937) 年 7 月 29 日に、北京の東 20 キロの通州という城塞都市に居留民として住んでいた日本人の約半数に当たる 225 人が、日本の駐屯軍不在に乗じて叛乱を起こした中国人部隊（保安隊）によって鬼畜も及ばないほど残虐に殺された事件です。当時、中国に滞在していたあるアメリカ人ジャーナリストは「古代から現代までを見渡して最悪の集団殺人として歴史に記録されるだろう」と書きました。

事件勃発の後、事件の真相が少しづつ判明するに従って、新聞は号外も含めて毎日大きく報道しました。事件の余りの悲惨さに新聞の紙面は記者の怒りや慟哭の見出しで溢れ、日本国民に計り知れない衝撃を与えました。国民の憤怒の思いと悲しみの涙が日本全国に広まったのです。

戦後長いあいだ闇に葬られていた「通州事件」を、初めて教科書に載せたのは、平成 27 年度に検定に合格した中学生用の『新しい歴史教科書』(自由社)でした。ところが、中国は虚構の「南京大虐殺」をユネスコの「世界の記憶」に申請し、これが登録されるに至りました。そこで、有志が集まり、中国に対抗して「通州事件」を「世界の記憶」に申請しました。しかし、中国の妨害で申請は却下されてしまいました。

私たちはこの度、『新聞が伝えた通州事件 1937—1945』を、通州事件 85 周年記念事業の一環として出版いたします。文字通り、事件勃発から終戦までの通州事件に関する新聞記事を網羅しました。総件数は 275 件にのぼります。紙面の写しを掲載するとともに、現代文に文字おこしした文章を併載しましたので、事件の経過を時系列で容易にたどることができます。解説や関連資料も豊富に掲載しました。

世界では今も国家・民族の対立が助長され、戦闘に伴う残虐な事件が後を絶ちません。そうした中で、日本人が三度と再び通州事件のような悲惨な目に遭わないようになるにはどうしたらよいのか、その対策を考える第一歩として本書を活用し、歴史の中から教訓と指針を読み取っていただくことをご期待申し上げます。

通州事件アーカイブズ設立基金／集広舎